

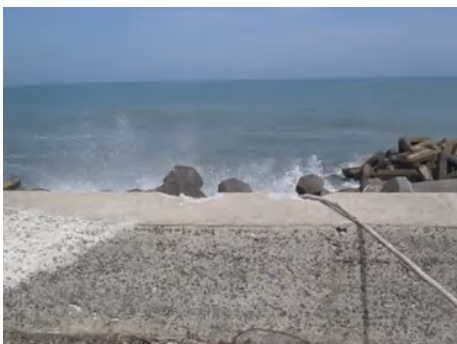
鈴木一弘（名古屋東海クラブ）@仙台→宮古へ移動中です。

7月28日（木）に、仙台YMCAから日帰りで南相馬市に赴きました。地元の小学校教員でエコ活動をされているAさん（仮名）宅に、日本YMCA同盟を通じて寄贈されたペットボトルの水（1500本）の積み下ろしに立ち会いました（写真）。同地域で、放射能に不安を抱く方々に配布してくださるそうです。



南相馬市の主要道路を車で走ると、マクドナルドや洋服の青山など全国展開している（大型）店は一部撤退休業しており、不思議というか異様な雰囲気です。

Aさんによると、「放射能に関する話は何となく避けられている」ようで、危険や不安を感じても、例えば、公務員は「安全です」としか言えないし、教員間でも、「教育委員会のお達しで安全となっているから」と、児童・生徒に対して本音を言えない状況があるそうです。



また、避難区域や警戒区域などの区割りによって、コミュニティ意識自体が分断されているのも深刻な問題だとのことです。隣同士の家なのに、一方は（強制）避難させられ、一方は警戒区域として残される。

ある工場は、20キロ圏内（立ち入り禁止区域）に入っているのに、操業が認められている。

（ライン引きにも複雑・不透明なものがあるようです）

立ち入り禁止区域横の海岸に降りましたが、当然水には触れず、波しぶきが飛んできて心配というか「家に帰る前に、この服を捨てようか、小さな子どもがいるし・・・」と考えてしまいました。（何がどこまで安全なのか・・・判断できません）



南相馬市の人々は、相当な、しかも漠然としたプレッシャーの下で生活されていることを、ひしひしと感じる一日でした。

今日（7月31日）は、岩手県宮古に滞在し、明日帰ります。宮城・福島・岩手の3県を回りつつ、浮かんでくるのは、「東北とは何か」との問いです。

中公新書に『東北一つくられた異郷』（河西英通著）があり、今、読み始めたところです。